

テープが役立つ。シーラントを選ぶときには慎重に。例えば、シリコン製シーラントは湿った木には接着性が低下し、機能を発揮できない。

- ⑤ 建物と屋根を何らかのハウスラップで包む。ハウスラップの重なりは水平部分で最低75mm、縦のつなぎ目で最低150mmとする。日本のアスファルトを染込ませた防水材は最高の品質で、この種のハウスラップは長持ちする。この飽和性フェルト防水材は水平に取り付けられて、層を上へ上へと重ねることで水が自然にながれ落ちる。タイベック式のハウスラップもよい資材で、日本式の幅1mのタイベックはアメリカ式の2.7mのものより



外壁に1枚目のハウスラップを貼る

優れている。幅が広いと何層もの水切りができない。以前の製造会社の指示では、タイベックを窓の上から取りつけるのではなく、タイベックを切り開いて窓を取り付けていたが、この方法では、上部に2枚目の層のフラッシングを取り付け、ネールフィン(フランジ)をテープ式シーラントで覆わなくてはならない。こうすると第一の水分バリアがネールフィン(フランジ)に着けたテープの化学物質のバリアとなるので賢明の索とは言えないであろう。1m幅のタイベックをアスファルト飽和防水材のように取り付けることをお勧めする。詳細は後述。

- ⑥ ハウスラップは長く続けて取り付ける。継ぎ目の多くなる短いものは使わないこと。
- ⑦ ハウスラップはサイディングの下少なくとも50mmは出るように取り付ける。
- ⑧ タイベック式のラップの継ぎ目はすべてタイベックの継ぎ目用テープで留める。
- ⑨ 外壁の角は、最低300mm幅のラップを1層目のラップの上に重ねて2重にする。

- ⑩ ネールフィン(フランジ)が全体に溶接されたものでない限り、金属製のフラッシングを窓上部に取り付ける。窓に溶接されたネールフィン(フランジ)でなければ水漏れする。金属製フラッシングは常にハウスラップの下に設ける。
- ⑪ サイディングの仕上げには高品質のペンキ塗料を使用。建物の生涯に亘り、塗料は塗り直して維持しなければならない。ペンキは建物外部の第一の水分バリアとなり、常に天候にさらされてるので、古くなるとサイディングや構造体に水が浸入しやすくなる。
- ⑫ 適切な屋根裏換気は、どのような天候下でも維持されなければならない。暖かく湿った空気は上昇し、最後には屋根裏へ運ばれる。この水分を逃すシステムが屋根裏になくしてはならない。屋根全体の換気が適切に行われるよう、屋根の換気口の寸法や位置を正しく設ける。棟換気、屋根の換気口、切妻の換気口、電動式換気などがある。寸法を十分に正しく取らなくてはならない。
- ⑬ 地下の床下には防水材を施して、地面の水分が暖かい室内に吸い込まれないようにする。多湿

気候では、地下の床下に水分が入り込まないようにすることが大切だ。少なくとも連続した6mmの厚さのビニールシートを床下地面全体に敷くことだ。継ぎ目はテープで留める。十分な換気を常に行う。密封されたポリエチレンシートを砂利か砂の上へ敷いたり、樹脂製ペーパーバリアの上に50mmのコンクリートを流したり、砂利を敷いて水だめポンプで排水するなどの方法がある。また、換気扇で新鮮な空気を床下に送り込み空気の循環を行うこともある。



地下の防水シート

- ⑭ コンクリートに接触する木材はすべて防腐防虫処理材を使うこと。
- ⑮ 土台の下に閉鎖細胞性の発泡シーラントを敷き、水分による損害を防ぐ。このシーラントは安価で、アメリカでは「シルシーラー」と呼ばれている。ほとんどの地域で法的に要求され、枠組の土台の下から入り込む隙間風を防ぐのに効果的である。

### 室内水分のコントロールについて

室内の水分は、居住空間で適切な換気を行うことでコントロールすることが肝心だ。特に現代のペアガラス窓を用いた高気密の住宅では、機械換気的重要性が高くなる。アメリカではほとんどの地域で、機械換気が法的に要求されており、例えばワシントン州の新築の住宅では、建物の内部を換気するいくつかの公認の方法のうちひとつ選ばなくてはならない。方法の大半はセントラルヒーティングのシステムに新鮮な空気を取り込み、暖冷房の空調を施して室内に循環する。セントラルヒーティングがない場合は、小さなプラスチックのフィルター付き換気口を通じて室内に空気を取り込む方法を採用する。建物の中心部に設けられた換気扇がタイマーにより一日のうち何度か作動し、プラスチックの換気口を通して空気を取り込み、室内に循環するシステムだ。この方法では、室内温度が過度に上昇・下降するおそれがあるため、寸法や規模を正しく設定する必要がある。また、調理場や洗濯場にも換気扇が必要である。

